

2014

広報

おぼま 1

《表紙》

防犯組合若狭地区連合会の「防犯サンタ」が聖ルカ幼稚園と乳児保育園を訪れました。幼稚園では、園児103人を前に、小浜警察署の署員が、交通安全と防犯について説明。その後、サンタがひと足早いクリスマスプレゼントを手渡しました。
(12月12日・千種二丁目)

【特集】今、ぼくたちにできること



市民協働BOX
vol. 25

今、ぼくたちにできること

小浜を元気に！若者は未来に向かって走り続ける

「若者の参加が少ない」「若者はまちづくり活動やボランティアに興味がない」。よくそんな言葉を耳にしませんか？でも、本当のところはどうなのでしょう。小浜の活性化を目指して奮闘する若い世代から、今のまちの姿が見えてきました。

■問い合わせ 市民協働課 ☎内線 372

協働って？自分に何ができるだろうか？
小浜のこれからが見えてきた！

若 者によるまちづくりに、これからの小浜の未来がある！

さまざまなまちづくり活動に取り組む若者4人に、市民協働課の担当者へ交えて、座談会を開催しました。

芝 皆さんが現在のまちづくり活動を始めたきっかけを教えてください。

中野 小浜で毎月開催されるイベントができないかと思い、友人3人と道の駅でフリーマーケットをはじめました。

森本 わたしは、そのフリーマーケットへの出店がきっかけで、知り合いの輪が広がり、平成25年3月からはじめた「街飲み祭り」という街コンの運営にも関わるようになりました。

中野 東京から小浜にUターンして、なにか地域のためにしたいと思い、里山活性化の活動をはじめました。

小堂 青年会議所には、先輩に誘われて入ったのですが、活動をするう

ちに、地域の魅力を生かして、外にPRすることが大事だと気づいたんです。

芝 皆さん、「市民協働」にはどんなイメージを持っていますか。

小堂 行政と団体のコラボレーション

んでしょうか。最終目的は、まちのにぎわいだと思うのですが。

中野 目的はまちのにぎわいですが、やり方がみんな違うというだけで。

中野 実際に、足並みそろえて「いっせいのせ」は、難しいと思います。それぞれ得意とする分野でできれば。

芝 頑張っている活動には、行政としても何か支援したいと思うのですが。

小堂 お金もそうですが、人的支援ですかね。

中野 市民がボランティアをする休日や仕事終わりの時間は、市役所の人たちにとってはプライベートの時間だから、かみ合

うことが少ないですね。

小堂 そこを出てもらえると嬉しいですね。

森本 街飲み祭りのボランティアも市役所の人はいなかったです。

中野 「市役所だから前に出るとまずい」と、一歩引くところがありますよね。



写真左から、NPO 法人 WAC おばま 中野 阿児さん (29 歳・門前) 街飲み祭り実行委員会 隊長 森本 悠里さん (28 歳・甲ヶ崎) ミチフリマーケット実行委員会 委員長 中野 正勝さん (32 歳・山手二丁目) 若狭青年会議所 若狭のまち創造委員会 委員長 小堂 壽久さん (33 歳・下田)



①地域の活性化や整備を目指す「上根来プロジェクト」②若者が企画を盛り上げる「街飲み祭り」③毎月道の駅で開催されている「ミチフリマーケット」④同イベントでは観光局と連携した流しそうめんなどイベントも実施⑤伝統的な町並みを活用した「町家 de フェスタ」

そんな風に誰も思わないのですが。
中島 むしろ、「すげーな、市役所」って、好感度がアップします。
芝 市としても、職員に「活動に参加する地域公務員になろう」と呼びかけています。若い職員さんなどは、視野が広がったり、仕事にも生かせると思います。
中島 誰だって努力扱いされるのは面白くないと思うので、各課の専門性を生かし、知識や技術を提供してもらえるとありがたいです。
小堂 参加していて、楽しくないという意味もないと思います。参加した人の笑顔や、その後の効果とか、その達成感や充実感が運営側の楽しさですね。
森本 わたしが一番嬉しかったのは、ミチフリを毎月楽しみにしていると言ってくれたおばあちゃん



上根来プロジェクト

平成23年に、まちづくりNPO・WACおばまを中心に、若狭東高校、地域、行政など各種団体が協働により立ち上げたプロジェクト。
 里山風景が残る上根来区の活性化や環境・資源の保存活用を目的に事業を展開。トレーニングコースの整備や、ツーリズムを目的とした空き家のゲストハウス化、高校生との治山活動、かつて小浜で栽培されていたアブラギリ（油がとれる植物）の研究など、幅広く活動しています。

ここが旬！



へしこを酢飯に乗せて、アブラギリの葉で包んだ葉寿司を開発。ご当地グルメ定着を目指す。

の声。その一言でこれからも頑張っていこうと思いました
中島 僕も活動を続けている理由は、楽しいからです。いろんな人と出会いがあり、そこでの学びが、自分の感性を豊かにしてくれて、面白いと思えることが増えました。
中野 僕らの活動で小浜が盛り上がり、今いる子どもたちが将来小浜に帰ることにつながれば嬉しいですね。そんなきつかけ作りを僕らの世代でできればと。
芝 皆さんの周りの人たちはボランティアに興味がありますか。
森本 わたしの周りの若い世代にもボランティアをしたいと言う子は多いです。ただ、みんなち個人では、どうやって動いたらいいかわからないみたいです。
小堂 どうすればボランティアが



街飲み祭り

「街コン（地域活性化と出会いを目的にした交流イベント）」を企画して、小浜を盛り上げようと、市内の若者有志が、平成25年1月に実行委員会を結成。3月に、駅通り商店街と連携して、参加者が飲食店をめぐる「第1回街飲み祭り」を開催しました。
 11月には早くも第2回を開催。前回の企画が好評を呼び、対象飲食店は8店に増加して、160人が参加。当日も多くの若者がボランティアとして活動しました。

ここが旬！



告知はフェイスブックなどのSNS、申し込みはHPと、インターネットツールをフル活用。

できるかわからないんですね。
芝 確かに、小浜市には現在そういう機能がないので、課題ですね。皆さんより若い二十代前半の世代へのつなぎはいかがですか。
森本 街飲み祭りのボランティア募集では、二十代前半の子に積極的に声をかけました。そうやって、少しずつ下の世代に受け継いでもらえればと思います。
中島 そういう出会いって大事ですよ。何かやりたいと思う人に自分が関わっていけるといいですね。僕も、次は自分がそうなる番だと思っています。
芝 皆さん、今日はありがとうございました。

次
 回の、市民協働BOXは、4月号に掲載予定です。



ミチフリマーケット

平成23年に、小浜で毎月開催できるイベントを目指して、市民有志3人で実行委員会を結成。道の駅「若狭おばま」を会場にしたフリーマーケットを企画運営しています。口コミで広がり、現在は市内外から約20団体（個人）が出店しています。
 道の駅を管理する観光局や行政との協働を進め、音楽・ダンスのライブや、子ども向け体験イベントの同時開催、特産品の販売など活動の幅を広げています。

ここが旬！



今年8月、夜間までイベントを拡大した「ミチフリdeナイト」を開催。大勢のお客さんにぎわった。

小浜のまちを活性化しようと頑張っている4人のように、元気な若い人たちが交流することで、大きな力となり、小浜にイノベーション（人や社会の変革）を起こせるのではないかと思います。
 行政としても、埋もれている若い人たちを掘り起こせるよう、積極的な活動支援をしていく必要があると感じました。
 まちづくりやボランティア活動をしてみたい人は、市民協働課までご連絡ください。



市民協働課 芝 主査



町家deフェスタ

平成24年に、若狭青年会議所の呼びかけにより、小浜西組町並み協議会、地域、行政が連携して、伝統的な町並みが残る三丁町（香取・飛鳥区）を舞台にしたイベントを企画。地域の伝統行事「庚申大祭」に合わせて、平成25年7月に第2回が開催されました。
 カフェなどをめぐるスタンプラリーや、料亭での三味線体験を実施。通りには、昔の縁日を再現した出店が並び、当日は浴衣を着た女性や家族連れでにぎわいました。

ここが旬！



イベントでは、三丁町の空き家を活用して、市内外の作家による限定ショップなどをオープン。